

川平和美・下堂蘭恵・野間知一 著

片麻痺回復のための運動療法 [DVD 付] — 促通反復療法「川平法」の理論と実際 (第3版)

岩瀬義昭 (北海道医療大作業療法学/鹿児島大学名誉教授)

脳卒中による障害は、運動麻痺や感覚障害、高次脳機能障害などさまざまなものがある。とりわけ片側の運動麻痺は、中枢性神経麻痺の特徴が大きく現れる。単に力が弱まるのではなく、変な力が入り硬く痛くなる、動作をするのに余分な関節と一緒に動く、体の各部分の位置関係がおかしくなる、などである。そのため、中枢性運動麻痺は生活の遂行に大きく影響する。日常生活活動では、朝夕の寝起きから洗顔・歯磨き、食事やトイレ動作、入浴などさまざまな活動の遂行に影響する。それは運動・動作の問題だけでなく、「実行することに時間がかかる」「終わった途端に疲れ切ってしまい、次にやりたい事に取りかかる気持ち薄れた」など生活の質にも影響している。さらに、職業や学業生活、家庭生活などの生活関連活動にも影響を与える。そのため、罹患された方は、おのれの運動障害を何とか回復させて欲しい、そして社会や家庭に復帰させて欲しいと医療従事者に切望する。

一方、医療従事者、特にリハビリテーション医療に従事する者は、その患者さんの声に何とか応えたいと感じているであろう。しかし、神経解剖・生理学を養成課程で学んだわれわれ療法士をはじめとするリハビリテーション医療従事者は、脳を含む神経系の損傷は治療に限界があると考えてきた。

本書初版は、脳卒中に対する治療・研究の場で活躍してきた川平和美氏(前・鹿児島大大学院教授/鹿児島大附属病院霧島リハビリテーションセンター長)が2006年に著したものである。川平氏らが所属

する霧島リハビリテーションセンターでの取り組みは公共放送でも取り上げられ、全国各地の麻痺回復に悩む脳卒中片麻痺者からの問い合わせへの対応に苦勞されたと聞く。その後、川平氏は2010年5月に第47回日本リハビリテーション医学会学術総会を大会長として鹿児島で開催した。ここでは、エビデンスのある治療方法のセッションが組まれてあったが、多くの医師で満員となっていた。また、霧島リハビリテーションセンターで開催される実技研修にも全国からの参加者が多く盛会であり、本書も初版、2版とも増刷を重ねていたと聞いている。

この間に本書は進化を続け、共著者である現リハビリテーション医学講座の下堂蘭恵教授、霧島リハビリテーションセンター作業療法士の野間知一氏や講座に所属される研究者により、神経系の回復メカニズムや治療介入の効果研究が蓄積されて、エビデンスレベルも上がっている。

本書の構成は、基礎編、実践編の2部構成となっている。実践編はカラー写真になり、DVDも新たに撮り直した映像が載せられ、わかりやすくなった。しかし、本書は基礎編からじっくり読み進めて欲しいし、引用文献に記載されている原著も読んで欲しい研究書でもある。

本書は、臨床で脳卒中片麻痺者の回復に取り組む医師や療法士にはぜひ一読していただきたい良書である。

(B5 頁224 2017年 定価6,200円+税[ISBN978-4-260-02216-3] 医学書院刊)